平成13年度乳房撮影ガイドライン・精度管理研修会（金沢会場）に参加して

平成13年9月1日から2日間、金沢には青空が広がり、外に出ると心地よい風を感じられ、秋の訪れを予感させる過ごしやすい週末でした。

今回の研修は乳房X線撮影を行ううえで、われわれ診療放射線技師がマスターしておかなければならない項目が網羅されていた。一番痛感したことは、われわれ技師の仕事の幅広さ、可能性。奥深さです。乳房だけでなくほかの検査分野においてもこのような動きがもっと活発になり、診療放射線技師という職業がもっとメジャーな仕事になっていく必要があるように思います。

いま、医療界では多岐にわたる問題が日々クローズアップされていますが、ほとんど患者さんのための医療を目指すのであれば、各検査の特性を踏まえた検査精度の標準化を取り組んでいくことが重要なのではないでしょうか。

われわれの職種は、何か規格や基準を設ける際、技師独自のものに偏りすぎ、なかなか他の職種の方々と歩調を合わせることが難しいものでありましたが、マンモグラフィのように医師とともに同じ歩調で物事を進めていくことは、非常に大切で重要なことではないでしょうか。

今回研修会で指導をしていた講師の方々、並びに一緒に研修を受けられた受講生の皆様に深く感謝いたします（Photo）。

参考文献

3) 米国放射線専門医会・マンモグラフィ精度管理委員会: マンモグラフィ精度管理マニュアル(1999).
4) 加藤二久, 松本順, 東田善治, 他: 乳房X線撮影線量の全国調査. 日乳癌検診学会誌, 8(2), (1999).
5) 佐藤伸雄, 安部真治, 岩波茂, 他: 放射線診療における品質管理. 医療科学社, 東京, (1997).

2001年12月